

鴨沂の流儀

進路指導部だより
平成30年7月20日発行・第6号
京都府立鴨沂高等学校
進路指導部

さあ、3年生

怒濤！ 370時間の真実

～370時間の向こうにはきっと新しい君がいます。

全身で学習にぶつかる覚悟はできているはず。1日10時間学習の37日間。でも、その覚悟、意気込みが空回りしないように夏を活かすコツを、「鴨沂の流儀」は君のド真ん中に向かって叫びます。



1 「とにかくがんばる」はダメです！

「がんばる」なんてことは、1日2時間の勉強でも人によっては「がんばった」気分になれます。大事なことは「何をどのようにがんばるのか」であり、そのための時間を確保することです。旺文社「蛍雪時代8月号」の大学合格者の夏の平均学習時間調査でも、1日に8～11時間が42%の断トツのトップ。続いて11～13時間が25%、5～8時間が19%、やはり一定の時間量は夏には必要なのです。

2 計画の具体性が明暗を分けます！

- ① 夏休み全体の達成ラインを決める。～やるべきことを検討して、書き出します。
- ② 3つの時期に区切って達成ラインを決める。～今年の第3学年は夏を3期に分けての計画を勧めています。
- ③ 1日ごとの達成ラインを決める。～朝、昼、夜での学習内容を割り振ります。

計画なんて面倒なことは自分には無理！と思っている人、高校3年生の夏は一度しかありませんよ。一度きりの夏にやり損じは許されません。何に取り組むかを見据えて、それを午前3時間、午後4時間、夜間3時間の合計10時間に配分していく。夜に4時間やってもいいし、5時間やってもよいのですが、あまり無理をせずに一日10時間程度で収める方がよいでしょう。

- ④ やった、やってないを記録に残す。～過不足は調整しましょう。

「夏の終わりの方で取り返す」ではなく、7月の不足分は7月のうちに取り戻し、8月前半の不足時間はその前半のうちに挽回しましょう。「次の日曜はコンサートに行きたいから今週は毎日プラス1時間」なんていうふうに先にやっておけば、こころおきなく遊べるというもの。でも、「今日は気分が乗らないから」というのは、なんとか避けましょう。そのままズルズルと学習時間が減っていくのが目に見えているからです。

「370時間の真実」

この夏が、受験の正念場。この夏が、これまで君たちが時には苦しみ、時には晴れがましい思いをした「勉強」というものに結論を出すとき。口先だけの受験生にならないために、真の受験生になるために370時間の向こう側には、君自身が気づいていなかった君がきっといます。



受験勉強とは異なっても、すべての3年生が進路実現に向けて自分が今やるべきことを自覚してがんばる夏にする。調べる、準備することは全員にあります。

1年生、2年生 夏に前進、進路へつながる夢

もうすぐ届く成績。君たちの1学期間の学習結果が数字ではっきりと表されています。

授業で学んだ内容は、入試においてはまず基礎となる絶対に押さえておかなければいけない内容です。それで仮に6割の点数しか取れていないとすれば、残りの4割は理解不十分なままということになります。これを放置しておく、必ず後でしっぺ返しが来ます。

夏にやりきる目標を決める

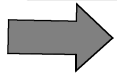
夏休み中に絶対にしておきたい学習といえば、各教科からの課題、それにプラスして、自分がこの夏「やりきる」もの、これをはっきりと決めることが大切です。自分のがんばるポイントをしっかり決めておく。「☆☆問題集を一冊やりきる」など目標はできるだけ具体的な方がいいですよ。

夏に本を読む

知識を蓄える方法、広い視野を手に入れる方法は、何も教科の学習に限ったことではありません。読書に努めることは、面接や作文が重視される就職希望者にはもちろん、一朝一夕ではモノにならない小論文対策においてもとても重要です。

夏に夢をふくらませる

学習の元気は、夢を見つめて背伸びしたい気持ちから湧いてくるもの。進路意識で膨らむ胸からは、きっとやる気があふれてくるはず。オープンキャンパスにも行ってみましょう。



そこで、学校に会いに行く！オープンキャンパスへ行こう

オープン・キャンパスや体験入学が、夏は盛んです。3年生が受験を控えた学校に行くのは当然ですが、1、2年生にとっても、学習のモチベーションや学部・学科研究に欠かせません。もちろんそれだけではありません。

プラス面



実際に授業を受けてみて、自分にピッタリの学校を選べる。



華やかなキャンパスを見ることで、入学したい気持ちが高まりやる気がアップした。



憧れというのも、重要な学習の動機になります。大学の体験講義、模擬講義を通して、これまでよく知らなかった学問分野が分かり、受験の幅が広がることもあります。服飾デザインや美術系の学校は、その学校独自のカラーがはっきりしていて、そこを見極めないと入ってから大変です。特に美術系は入試においてその大学と画風、スタイルが違ったりすると良い点数につながりません。大学が開催する講習会には参加してください。

マイナス面、でも一周回ってプラス面に



集まっている受験生の雰囲気予想とかなり違って、自分だけ浮いてた。



これはよくあることです。学科・コースの名前だけで「自分にぴったりの学校はここだ」と決めてしまうと、こういうことになりがちです。行ってみて、「ああ、ここは違うかも」と気づくのも大切なことです。

「自宅通学するつもりだったけど、毎日の通学はムリだと分かった。」というのもよく聞きます。また「軽くのぞいてみただけなのに、あるいは友だちに付いてきただけなのに、やたらと受験を勧誘された」という困ったケースもあります。

見比べてみてこそ、その学校の特徴が分かります。1年生、2年生段階から複数校を見ておくことを勧めます。

くら☆すた

最終話「くら☆すたの星、光る時」の巻

鴨川みぎわ： だからね、謎の声は風に弱かった（H29 第8話）し、水にも弱かった（同第9話）。そして、いつもその時にはノボル君は姿を消した。

勇氣ナエ： じゃ、ノボル君の正体は…。

みぎわ： 鞍馬ノボル、（キッと指さす）実は鞍馬口の妖精ね。ノボル君、違うとは言わせないわよ。

鞍馬ノボル： ハッハッハッ。ばれてしまったのなら仕方がない。それなら君たちに夏の学習計画の心得を伝えよう。

ナエ： ここでいきなり学習計画？

ノボル： いくら頑張る気があっても、計画がなければ実行はできないのが勉強というものだ。目線をしっかり上に定めて、それに伴う計画をする。そして大事なことはそれを表にしたものを何度も「見る」ことだ。

みぎわ： 見る…ことが大事なの？ …そっか、「可視化し認識することで、意識と行動が変化する」鴨沂手帳の活用と同じ発想ね！

ノボル： その通りだ。受験勉強って生きていく上で大切な力を育ててくれるものなんだよ。そして…、（フッと消える）

みぎわ： …とうとう時間が来たのね、お別れの…。

ナエ： いやだ。こんなのいやだ。もっともっとさよならを言いたかったのに。ワーッ（泣く）

みぎわ： 普段通りのままでお別れしたいなんて格好つけちゃって…、なによ。

ノボル： （ふたたび出現）なによ…り、大事なことは強い意志の力だ。

みぎわ： ちょっと、どういうことよ。お別れしてどこかに帰って行くんじゃないの？

ノボル： 僕は鞍馬口の妖精だから、よく考えたらここから去って行くのは君たちの方だったんだ。

みぎわ： そっか。やれやれ、じゃあ、残った時間は、2年半の連載のいろんなことを語り合おうよ。

ナエ： 話したいことはいっぱいあるわ。…今のこの時間が、ずっとずっと続けばいいね。

「鞍馬口のスタイリッシュな仲間たち」略して「くら☆すた」は、これでおしまいです。



